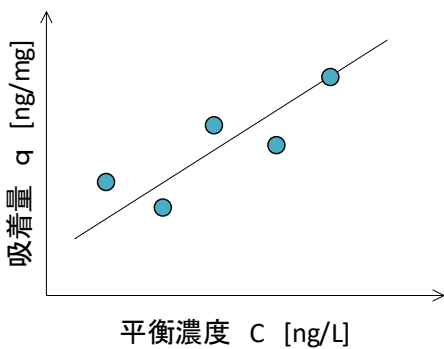
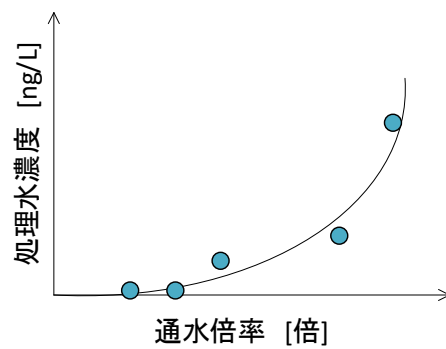


PFAS 吸着剤の性能評価

【各種試験】

- ① ジャーテスト : 粉末活性炭等を対象に、注入率と除去効果の関係を把握
- ② 吸着等温線試験 : 吸着材の潜在的吸着能力を把握
- ③ RSSCT : パイロットスケール試験を 1/100 程度の時間で促進して実施し、処理水質の時間的变化を把握
- ④ パイロットスケール試験 : 実際の処理施設と同等の規模で、処理水質の時間的变化を把握

【主力商品について】

	吸着等温線試験	RSSCT (迅速小型カラム試験)
目 的	吸着材の 潜在的吸着能力 を把握するためのデータ収集	吸着剤のライフ(交換を要するまでの期間)や 最適な SV を把握するためのデータ収集
概 要	● 既知濃度の PFAS 溶液に、既知量(複数条件を設定)の吸着材を投入し、平衡状態にする。 ● 各平衡濃度[C]を測定し、単位質量当りの PFAS 吸着量[q]を算定、[C]と[q]の関係を把握する	● 吸着剤を粉砕してカラムに充填し、連続的に処理することで通水倍率(処理時間)と処理水質との関係を把握する。 ● 粉砕することによりパイロットスケール試験と比較し、時間、コスト、労力を大幅に削減できる。
期 間※1	分析結果の速報までに 2 週間程度	分析結果の速報までに 1 ヶ月間程度
結果の概念図※2		

※1 : 試験開始からの必要期間 (試験条件、実施時期によって異なります)

※2 : 試験条件、水質測定結果と合わせてご報告いたします